

大歳社

大歳社は初辰まいの 4 番目の場所で終点である。神話に登場する収穫神・大年神を祀る。大年神は種貸社や楠碯社の祭神である稻荷の兄である。

大歳社を訪れることで、「種を植える」(種貸社)から「育てる」(楠碯社)、「刈り取る」(大歳社)へと続く、象徴的な展開が完成し、農業をビジネスへ例え、初期投資から最終的な成功を得ることを表す。江戸時代(1603年-1867年)に書かれた旅行ガイドブックには、大阪の商人が借金の回収に苦労しているときに神社にお参りすると書かれている。